midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

January 2014 No.366-367

１月号の１枚：嵐山でふるまわれたお汁粉

［巻頭言］自ら経済性を創出する実学思想でなければ

独立自尊の精神有ってこその実学思想

　実学思想というのは、慶応義塾大学の福沢諭吉先生の教えだが、単に日常に役立つと言う意味でなく人間社会・自然科学を含めた実践・検証を含めた学問です。先生は、それは「独立自尊の精神有ってこそ」と説いておられます。自然との調和を基調とする森林・林業に取り組む者は、人間社会・森林現場（自然科学）に通暁しつつ何が真実かを究め、物事の真の姿を理解して自ら判断すると言う意味で「林学は、独立自尊の精神と一致した実学でなければならない」と思うのです。

　そういう意味で、我が国の森林・林業が行き詰まっているのは、森林・林業の実学体制が出来ていないのではないでしょうか。数字上、自給率50%を目指しても林政の実学体制が出来ていないため、補助金によって原木は市場に出てきても（世界がグローバル化したために為替レートの影響も受けているでしょうが）、在庫がダブって材価は下降気味です。林業が儲からないスパイラルに、更に陥りかかっています。現代を生きるためには、国内の少子化問題に目を向け、世界的変動の渦の中に有る経済・社会の変化を読んだ上で、森林・林業経営に先手を打つ必要があります。これまでの構造下で通用していた制度・慣行、思想・概念は通用しなくなっています。

　そこをどうするかを決めるのが、実学思想でしょう。森林・林業の現場に行って自ら問題を見付け、それを解決する為の仮説を作り、その仮説を検証・実証して結果・成果を出す。時代は刻々と変化しているのですから、次なる問題発生を予測して挑戦して行く。森林・林業に携わる者は、周りの様相に気をくばりつつ「独立自尊」の人でなければならないと福沢先生は教えの通

今月の定例活動

2013.12

12月 1日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
　　持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
12月15日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
　　主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

りです。

我が国の「森林・林業を担う森林組合」、一部の森林組合を除いて殆どの森林組合は、補助金頼りになって「独立自尊」の精神に欠けています。林政は、森林のみに特化して、森林資源の流通に繋がっていません。「供給と需要のバランスの取れた発展的システム」が必要です。それを可能とするのは、私たち自身も実学思想を理解し、林政・森林組合と共に実践する事にあると思うのです。これを座視することは、「森林・林業、国土の自滅」に繋がるのではないでしょうか。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[定例活動]小原本陣の森

12月1日（第一日曜日）

十二月になり寒さも増し、秋に紅葉した葉が落ちて、地面を鮮やかにしていきます。

今月の小原地域の活動は、今回で三回目になる永井忠男様のご自宅の裏にある四阿(あずまや)で行いました。この四阿は地元の方が散歩の差中、休息をとったり千木良の山々やその街並みの景観を望むために建てられました。

今回の活動では、より良く景色を観ることができるように伐採等を永井様や緑のダム北相模の方々のご指導の元、整備させていただきました。毎月一回活動している相模湖、若柳地域の嵐山でも木を伐る作業は行いますが、地理的にも時間的にも、多くの木を伐るという機会が中々ありませんでした。しかし四阿の活動では、前回と今回の活動で合わせて十本近くの木を伐り、枝を打ち、その木を丸太に加工する作業も行いました。また普段の嵐山での活動ではなかなか出来ないような、はしごを使った枝打ちも行うことができ、各々が様々な体験ができて良い勉強になったと思います。

四阿の活動後には、相模湖小原地域の小林自治会長のもと、四阿完成の祝福を兼ねた御飯会に招いていただけました。その御飯会には今回の四阿での活動が初めてだった帝京科学大学と首都大学東京の学生が四名も参加し、小原地域の方々や緑のダムの方々ともお話をする機会を設けることができました。これからの活動によって、森への興味･関心のある学生や小原の方々、また様々な人が増えていけば、より良い森づくりを行うことができると思うので沢山の人に森と関わってもらいたいと考えています。

私は以前の四阿での活動で緑のダムの松尾さんが広葉樹を伐った際に、その木に対して「ポンポン」と、優しく手で叩いていたことが非常に印象に残っていました。その時から、例え活動の障害になっている樹や植物があり、それを伐り命を奪ってしまうことになっても、“森を良くする”という意識をもって真剣に活動に取り組んで行きたいと思っています。

釜谷　優太
（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

12月15日（第三日曜日）

本年を締め括るにふさわしい好天。山主である鈴木さん宅の柿の実が青い空に映えている。参加59名。今日は高井戸中学、望星高校の参加がなく寂しいが、日大に加え久しぶりに樋口先生率いる東京学芸大の参加があった。学芸大の学生達はフォレストノバに合流し、活動を共にする予定。若者同士の交流は見ていて微笑ましい。何かよいことがありそうな予感が。

お花畑班はすっかり葉の落ちた梅やサルスベリの剪定を行う。冬枯れのなかの地道な作業だが、来るべき季節の華やぎはこれにかかっているといってよい。

体験学校長の斎藤さんはカブトムシ牧場の管理と新設される材の仮置き場の基礎づくりの両方に関わらねばならず大忙し。牧場の方は「生命の森宣言東京」の佐藤さんや森林整備班・小林さんの協力もあり、幼虫の餌となるクリの葉を大量投入。来

年にはきっと沢山の成虫が羽化することだろう。

一方の学生達。こちらはノバの淺野君がリーダーとなり、歩きながらカブトムシ牧場や森の解説を行っている。丁寧な話しぶりに皆熱心に聞き入っている様子。その後はノバの森へ向かい、間伐と植生調査の仕方を学ぶ。間伐は淺野君、植生調査は望月さんが担当。

「このところ森もかなり間伐が進んで、倒しにくい木しか残っていないので…」そういっていた淺野君だったが、悪い予感が的中してしまった。掛かり木である。これを来年にまで持ち越しては掛かり木ならぬ気掛かりとなる。樹高もあり作業は難航したが、樋口先生の助言と人海戦術とでこの苦境を乗り切った。

さて、ハイライトは仮置き場の基礎工事。チェーンブロックを使い古い切り株６～７本をやっとのことで惹き抜いてからは、柱を立てる場所の地面を掘り、杭を打つ。これが力の要るなかなか大変な作業なのだが、長谷川大工さん製作の杭打ち機の威力とメンバーの奮闘もあって何とか終了。こうすると土が締まり、土台が安定するそうだ。さらにその穴の中に粉砕機で割ったコンクリートのかけらを詰めていく。柱の安定と腐朽を防ぐためのもので、ノバの釜谷君も真剣に取り組んでいたが、本日の作業はここまで。伝統工法で建てられる仮置き場。完成までにはまだまだ時間がかかるだろうが、推移を見守っていきたいものである。

終礼後、石村ご夫妻手づくりの汁粉が振る舞われた。夕方になって日が陰ってきたこともあり、この一杯は参加者の身も心も温めてくれたことだろう。よいこととはこれだったか。

今年は幾度か雨に泣かされた日もあった。が、それでも会員の足は相模湖の駅に向かう。山への愛着、労働の喜び、相互の交流。これらが一体となった魅力がそうさせるのかも知れない。この一年、無事に活動ができたことを山の神様に感謝しつつ嵐山を後にした。

内野　郁夫（本会、理事）

上段：落ち葉を投入
中段左、中：間伐体験より
中段右：切り株を抜く
下段左：間伐体験より
下段右：丸太小屋、基礎づくり

[報告１]
嵐山の森、空間放射線量の測定結果

11月17日

昨年２、３月に引き続き、嵐山作業フィールドの空間放射線量の測定を行いました。

今回は、昨年以降の放射線量に変化がみられるかどうかとあわせ、福島原発事故と今後も長期にわたって続くであろう、自然環境を守る上での一つの課題として、環境放射線の影響を調べる測定作業について学ぶ機会とすることをテーマとしました。

昨年使用した測定器は簡易測定器としては多くの自治体等で使われているガイガーカウンター（SE International社製「Inspector+」）、シンチレーション・サーベイメーター（堀場製作所製「PA-1000 Radi」）の２台、今回使用したのは、昨年と同じ「PA-1000 Radi」とシリコン半導体式サーベイ・メーター（富士電機製「DOSE-e」を２台）です。

これら３種の方式はいずれも携帯式としては代表的な検出方式で、今回はその比較にもなりました。

測定結果の主な特徴は以下の通りです。

測定したいずれの箇所でも使用した３つの測定器ともに基準値（注１）以下であることをしめしました。

今回は昨年と同じ測定器「堀場Radi」（注２）でも平均的に神奈川県での自然放射線とされている0.04μSv/ hにほぼ近い値をしめしました。これは現在は福島原発事故の影響を受ける以前の状態がほぼ保たれていることを意味しています。

数値的には異常なしと言っていい範囲ですが、その中でも水源沢、谷筋などいくつか相対的に高い傾向を示すところがあり、また風がふくと数値が変わるなど、微細な浮遊物として放射性物質が存在している可能性をうかがわせました。これは今回の測定器の中で基準値以下の測定域では最も概算表示値（アバウトな数値）を出すと言われる「DOSE-e」（注２）の場合も同じ傾向性を示しました。

対前年比では共通する測定器は「堀場Radi」のみで、これによれば減少傾向と上記、移動による集約傾向とがみられました。

2013年測定結果

地図番号	場 所 名	高さ	2012年 3月		2013年 11月	
			Inspector+	Radi	Radi	DOSE-e
①	集会場	5cm	0.11	0.036	0.030	0.06
		50cm	0.11	0.036	0.032	0.08
		100cm				0.04
②	同中学生集合場所	5cm	0.12	0.045	0.037	0.07
		50cm	0.10	0.037	0.037	0.06
		100cm				0.04
③	台所	5cm	0.12	0.046	0.045	0.04
		50cm	0.12	0.051	0.038	0.05
		100cm				0.05
④	モマハウス付近	5cm	0.14	0.048	0.037	0.07
		50cm	0.10	0.040	0.038	0.08
		100cm				0.05
⑤	トイレ	5cm	0.12	0.040	0.041	0.06
		50cm	0.10	0.039	0.035	0.07
		100cm				0.06
⑥	体験学校	5cm	0.12	0.049	0.042	0.06
		50cm	0.12	0.052	0.038	0.05
		100cm				0.06
⑦	養蜂場	5cm	0.12	0.042	0.042	0.05
		50cm	0.10	0.042	0.039	0.05
		100cm				0.06
⑧	山道経路	5cm	0.08	0.045	0.039	0.05
		50cm	0.12	0.043	0.039	0.07
		100cm				0.05
⑨	フォレストノバの森	5cm	0.12	0.043	0.047	0.06
		50cm	0.11	0.042	0.039	0.07
		100cm				0.06
⑩	お花畑	5cm	0.14	0.060	0.038	0.04
		50cm	0.15	0.060	0.040	0.04
		100cm				0.04
⑪	集会場への舗装路	5cm	0.10	ND	0.045	0.05
		50cm	0.10	ND	0.050	0.07
		100cm				0.05
⑫	集会場向かいの畑	5cm	0.11	ND	0.053	0.07
		50cm	0.12	ND	0.044	0.06
		100cm				0.06
⑬	山の神入口	5cm	0.12	ND	0.045	0.05
		50cm	0.11	ND	0.035	0.04
		100cm				0.06
⑭	新カブトムシ牧場	5cm	ND	ND	0.029	0.05
		50cm	ND	ND	0.034	0.05
		100cm				0.05
⑮	木工作業場裏・水場	5cm	0.14	ND	0.053	0.08
		50cm	0.13	ND	0.051	0.06
		100cm				0.05

地図番号	場 所 名	高さ	2012年 3月		2013年 11月	
			Inspector+	Radi	Radi	DOSE-e
⑯	命の森	5cm	0.10	0.038	0.062	0.07
		50cm	0.11	0.039	0.064	0.07
		100cm				0.06
⑰	バッファゾーン赤ペンキ	5cm	0.11	0.039	0.033	0.06
		50cm	0.10	0.037	0.031	0.06
		100cm				0.06
⑱	バッファゾーン	5cm	0.10	0.045	0.035	0.06
		50cm	0.09	0.038	0.033	0.06
		100cm				0.05
⑲	水源沢	5cm	0.18	0.082	0.080	0.09
		50cm	0.14	0.070	0.073	0.10
		100cm				0.09
⑳	望星の森	5cm	0.16	0.077	0.070	0.08
		50cm	0.12	0.071	0.063	0.07
		100cm				0.06
㉑	重彦林道	5cm	0.08	0.057	0.069	0.07
		50cm	0.11	0.050	0.058	0.08
		100cm				0.06
㉒	寺跡	5cm	0.16	0.072	0.065	0.07
		50cm	0.14	0.072	0.064	0.07
		100cm				0.06
㉓	相模湖大橋中央	5cm	0.14		0.052	
		50cm	0.11		0.041	
		100cm				
㉔	路上側溝付近	5cm	0.16		0.049	
		50cm	0.14		ND	
		100cm				
㉕	北相中学校校庭	5cm	0.09		0.055	
		50cm	0.12		0.049	
		100cm				
㉖	20号線相模湖駅交差点	5cm	0.14		0.048	
		50cm	0.11		0.050	
		100cm				
㉗	相模湖駅駅舎前	5cm	0.15		0.064	
		50cm	0.13		0.060	
		100cm				

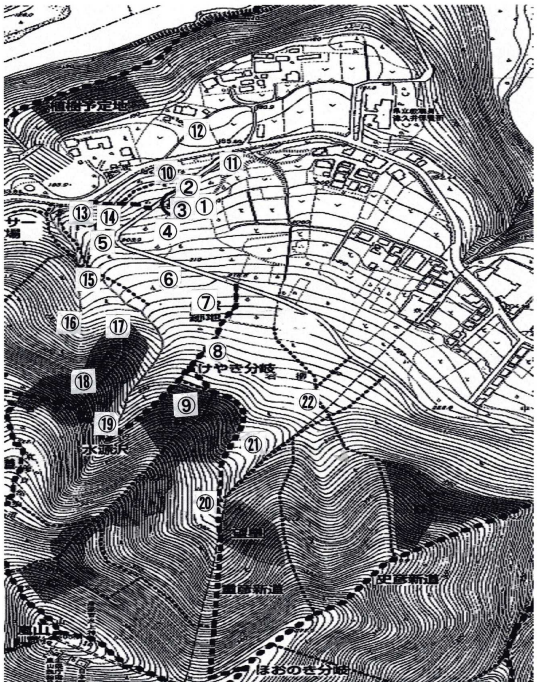
残念ながら、これらの測定器の中で、昨年比較的高い表示値をだしたガイガーカウンター「Inspector+」（注２）は今回使用しなかったため、昨年からの変化は評価できなかった。

ただ、同測定器による他の計測報告でもこの基準値0.23以下の領域では検出が敏感な分、高めの数値が出る傾向のある測定器と言われており、しかも前回計測の結果でも基準値の半分以下なので、今回の評価を覆すものではありません。

機会があれば、同じガイガーカウンターで変化をみてみたいと思います。

岡田　陽一（本会、会員）

嵐山測定箇所地図



[報告２]
ネイチャーフェスティバルについて

遠くの山々も澄みきった青空に映える季節となりました。１１月１０日、Forest Nova☆は、川崎市で行われているネイチャーフェスティバルに出展しました。ネイチャーフェスティバルは、ＮＰＯ法人幸まちづくり研究会さんやＪＲ東労組横浜地本さんらが中心となり開催し今年で１０年目を迎えました。Forest Nova☆も５年ほど前から毎年参加させていただいています。今年のテーマは、創ろう！新川崎の森・守ろう！水源の森・応援しよう！震災復興“いのちを守る森の防潮堤づくり”で、新川崎駅近くの公園で開催されました。私達の出展したブース以外にもポット苗作りやJRとの共同で模型展示も行われた賑やかなイベントでした。今回、Forest Nova☆は、日本の森の現状と木の良さを知ってもらいたいという想いから、紙芝居とマイ箸づくりとノコ引き体験を行いました。紙芝居は日本の森の現状をわかりやすく物語調にまとめたものを作り、マイ箸づくりをはじめる前に見てもらいました。間伐材を使うことの大切さを伝えたうえで、間伐材を使った木工をするので、ただ楽しいだけでは終わらない木工体験になったと思います。マイ箸づくりは、嵐山の間伐材を加工したものに、やすりをかけてもらい、仕上げにクルミの油を塗りました。手慣れた人には、小刀で形を整えるところからやってもらいました。子供から大人まで、熱中される方が多かったことと、想像以上にきれいに箸を作ってもらうことができたので、愛着を持ってくれた人がいたのが良かったです。ノコ引き体験は、意外と力が必要で小さい子には大変そうでした。しかし、大変でもあきらめず、顔を真っ赤にしながらも切り終わるまで頑張る子や、何度も来て他の子にも指導をする女の子など、参加者が途絶えないくらい大好評でした。丸太を切っているときの真剣な目と、切り終わった後の笑顔を見ていると「大変だけど、のこぎりって面白い！」、「自分で切った木はいいな」と体感してもらえたのではないかと思います。

私たちは森が近くにない人にも森のことを想い、日本の国産材を使うなどの行動をしてもらいたいと考えています。そして川崎市は、公園はあっても森からは遠く、自然体験はしづらい環境にあると思います。だからこそ、私たちは森だけで活動をするのではなく、積極的に街に行き、森に対する興味や関心を高めていく活動をしなくてはならないと思います。

治田　世以良
（Forest Nova）

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
　領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
　また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
　振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●第12期（2013年9月～2014年8月）と2015年3月まで
先月号に続き、会へのご支援いただいた方です。
会員のみなさま、会へのご支援ありがとうございます。（掲載は振込順になります）

正会員
瀬戸　智大、浅野　雅樹、治田　世以良、望月　亜佑子、吉崎　香代、芦田　梢、釜谷　優太、山田　和彦

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版